

# シラバス詳細

タイトル「2023年度」、カテゴリ「法) 政策科学科」

## 科目情報

<b>科目名</b>	政党政治論	<b>講義名</b>	政党政治論
<b>担当教員</b>	中井 遼	<b>実務経験のある教員による講義</b>	
<b>学年</b>	2年	<b>キャンパス区分</b>	北方
<b>開講学期</b>	1学期	<b>開講時期</b>	春期
<b>曜日・時限</b>	月 5	<b>講義室</b>	D-401
<b>科目種別</b>	講義科目	<b>ナンバリング</b>	-
<b>科目区分</b>	-	<b>単位区分</b>	-
<b>単位数</b>	2	<b>準備事項</b>	
<b>備考</b>		<b>直接参照URL</b>	<a href="https://gakumu-web.kitakyu-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=000600013281&amp;formatCD=1">https://gakumu-web.kitakyu-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=000600013281&amp;formatCD=1</a>

## 講義情報

### ディプロマポリシー・到達目標

項番	内容	対象	到達目標
DP1	知識	◎	政党・議会・選挙に関する専門的知識を身につけている
DP2	技能	○	国や地域の政党政治の特徴を算出・数値化できる
DP3	思考・判断・表現力	△	政治過程を通じた社会問題の解決を思考し探求できる
DP4	コミュニケーション力	-	-
DP5	自律的行動力	-	-

### 授業の概要

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し、適宜事例

を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りません）、現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。

受講者はこの授業を通じて、1. 政党システム論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが、その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか、自ら批判的に検討できるようになる；2. 一市民あるいは一専門家として、議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき、選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；3. 政党組織論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で、議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来、一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできるための予備知識を身に付けておく）ことが求められます。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「政党・議会・選挙に関する専門的知識を身に付けている」「国や地域の政党政治の特徴を算出・数値化でき」「政治過程を通じた社会問題の解決を思考し探求できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解してください。

## 教科書

特定の教科書はありません。

## 参考書（図書館蔵書には○）

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
- 待鳥聡史（2018）『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
- 待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会
- 砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社

## 授業計画・内容

回数	授業計画	内容
第1回	イントロダクション／政党と民主主義	本講義全体の位置づけやゴールを説明し、本講義の主題であるところの政党と民主主義の関係について、そもそもいかなる機能を果たしているのか、歴史的な否定論に言及しつつも、プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マディソンの【多元主義】的民主主義観や、政党の機能論、民主的統制との関連が重視される。
第2回	政党と政府形成①	政党の定義や多義的な側面について理解する。政党は選挙を媒介とした合法的手段を中心に政策主張を展開する政組織でもある。その一つの機能は政府形成機能にあり一国の政治を左右する。様々な政党（やその政策・立ち位置）のデータベースの代表例としての「比較マニフェストプロジェクト（CMP）」を知り、民主政治への含意を理解する。
第3回	政党と政府形成②	CMPを通じ、世界に様々な政党があることを知り、またその政治の展開にどのような影響を与えたのか知見を広める。日本を事例に政党政策位置の理解を深め、政党間競争や連立形成が各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離に影響を受けるということを理解する。
第4回	政党と政府形成③	議会の政党間競争が重要なのは、それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする連立形成理論とくに最少勝利連合の概念について理解し、仮想的な状況で形成される多数派を自ら予想できるようになる（このことは現実とのギャップを見出した時に、「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる）。ここでは、政党の数も重要であることが理解される。
第5回	政党システム①	議会で競争する存在としての政党ならびに、その全体的な競争状況を表すものとしての政党システム（政党制）概念について理解する。古典的かつ質的なサルトリの分類論を理解したのち、より近代的かつ量的な指標としての有効政党数を紹介し、その計算方法を習得する。
第6回	政党システム②	なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのかへと問を深める。説明要因として古典的な「凍結仮説」（社会構造的説明）と、選挙制度の効果とくにM+1ルールについて理解する。日本や地方自治体の選挙結果をもとに、制度の効果についての実証的知見を身につける。
第7回	政党システム③	有効政党数に対する制度要因をさらに追及し、様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく、その国の執政制度も影響を与える事をしり、さらに同じ比例代表でも算出方法「ドント式」「サン＝ラゲ式」「ヘア方式」等によって異なる議席数となることを、実際の算出方法の習得と併せて実感する。最終的には有権者の投票行動とつながることに理解を広げる。
第8回	政党と有権者①	政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく、組織として固定的支持基盤を形成したり、過去の業績に基づいて支持を集める。業績投票も重要である。それを媒介する利益団体とは何で、政党に対してどのように働きかけるのか、理解を広げる。
第9回	政党と有権者②	現実の政治展開を見た際に、そのように政党が有権者や利益団体から様々なインプットを受けつつも、その意向を重視したり軽視したりすることがある。逆説明責任や利益媒介の在り方に関する理論に基づき、そのメカニズムの理解を深める。
第10回	政党と有権者③	政党が有権者や利益団体の意向にグラデーションを付けるように、有権者の側も複数の政党の中から投票先を選択する（あるいは選択しないという選択を行

回数	授業計画	内容
		う)。そもそもどのように有権者は投票先を決定し、またその際にどのような情報環境や政治経済的背景が影響を与えているのか、理解を深める。
第11回	政党組織①	政党も一つの組織であり、その内部に様々な人間や利害や理念を抱えている。政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち、政党の「一体性party cohesion」や「政党規律party discipline」の問題である。特に党首選出を題材に、ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。
第12回	政党組織②	政党という組織と各議員によって異なる異論や議論がどのように処理されるのか理解を深める。この際、大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり、またそれは委員会制・本会議制によっても異なってくる。関連して、日本を中心に党の中の政務調査会や総務会がどのような機能を果たしているか理解する。
第13回	政党組織③	個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か、個々の議員の資質ではなく、制度（特に選挙制度）との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく中選挙区制の効果理解が必要であり、また同じ比例代表制でも拘束名簿と非拘束名簿で、議員のいづくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。
第14回	現実選挙の分析例	授業期間中にいずれかの国で行われた国政選挙・地方選挙を題材にし、講義で学んだことを通じて、どこまで理論と現実を整合的に理解できるか検討する。
第15回	デブリーフィング	講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回（に相当する回）を用いて調整する。

### 成績評価の方法

- ・授業中に行う4回の小課題：40%（各回：未提出0点，可5点，優10点で評価）
- ・期末試験：60%（テークホームイグザムになる可能性あり）

小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

### 事前・事後学習の内容

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してきてください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。全4回の小課題を提出する予定です。これらはmoodle上で締め切りを設定し実施します（また次回授業で活用します）。

また、事前事後学習とは座学だけではなく、本講義の知見を念頭におきつつ、様々な書籍や新聞を読解したり、マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見て考えを深めることも広義の事前事後学習時間に含まれます。

### 履修上の注意

- ・図表をスライドに投影しつつ、レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします【スライドは授業後の場合もあります】
- ・政治学/政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。

### 担当者からのメッセージ

#### キーワード

SDG16